

HPV ワクチン（HPV＝ヒトパピローマウイルス） 《定期接種》

【HPV 感染症について】ヒトパピローマウイルス（HPV）は皮膚や粘膜に感染するウイルスで、200 以上の種類があります。そのうち 15 種類程が子宮頸がんの原因になり「高リスク型 HPV」と呼ばれています。これらは性的接触により感染し、中咽頭がん、肛門がん、膣がん、陰茎がんなどにも関係しています。殆どの方が一生に一度は HPV に感染し、そのうち 90% は数年以内にウイルスが消失しますが、数% は持続感染となり前がん病変を形成し、一部ががんになります。

我が国では子宮頸がんは 20～40 代に多く、年間約 11000 人が発症し約 2900 人が死亡しています。妊娠の可能性を失う治療を要する場合もあります。

【HPV ワクチンについて】

定期接種に用いられる HPV ワクチンのうち、当院ではガーダシル®（4 価 HPV ワクチン）に加えて、2023 年 4 月より、シルガード 9®（9 価 HPV ワクチン）も採用しています。ガーダシル®は HPV 6,11,16,18 の 4 つの型に対するワクチン、シルガード 9®は、HPV 6,11,16,18,31,33,45,52,58 の 9 つの型に対するワクチンです。

HPV ワクチンは、HPV のうち上記に含まれる型の感染やそれによる前がん病変の発生を予防します。尖圭コンジローマという性感染症の原因である HPV6/11 型の感染も予防します。HPV ワクチンはウイルスが産生するたんぱく質を化学的に合成し接種することで抗体を誘導するものですので、接種による HPV 感染症はおこりません。

頻度の高い副反応として、疼痛、接種部位の腫脹、紅斑などがあり、まれに重いアレルギー症状や神経系の症状がおこることがあります。接種後 30 分は椅子に座って安静にし、当日は激しい運動を避けてください。

下記の説明はシルガード 9 について、記載いたします。

【接種方法】ワクチン 0.5ml を筋肉内に接種します。2 回（15 歳未満）もしくは 3 回（15 歳以上）実施します。

【定期接種の対象】小学校 6 年生～高校 1 年生の女子

※母子保健科では、保護者の同伴をお願いしております。

【スケジュール】初回時 15 歳未満：初回から 6 か月後に 2 回目接種

初回時 15 歳以上：初回から 2 か月後に 2 回目、初回から 6 か月後に 3 回目を接種

【接種について慎重な判断が必要な方】

- i) 怪我などをした際に、原因不明の疼痛が続いたことがある方。
- ii) 以前にワクチンを接種した際に激しい疼痛や両手足のしびれが生じたことがある方。

【接種費用】定期接種対象者は無料（23 区内の予防接種予診票を持参し、記載された有効期限内であれば公費負担）

【持参するもの】 予防接種予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいて下さい） 母子健康手帳

【特例措置について】

下記にあてはまり、使用期限内の接種表をお持ちの方は公費接種が可能です。

居住地の保健所にお問合わせください。

当院では、高校生は母子保健科・産婦人科のいずれでも可能、高校卒業以上の方は産婦人科での接種となります。

キャッチアップ接種対象者（積極的勧奨が控えられていた時期に定期接種対象年齢であった方）

対象：1997（平成9）年度～2005（平成17）年度中に出生した女性

措置：2022（令和4）年4月～2025（令和7）年3月の3年間無料接種対象

【9歳～定期接種年齢前に接種希望】 → 母子保健科に御相談ください。

* 知覚に関する症状、運動に関する症状、自律神経系の異常 認知障害などが HPV ワクチンの副反応の疑いとして報告され、機序は不明ながら平成 25 年 6 月から積極的な接種勧奨を控えることになりました。令和 3 年 11 月に「最新の知見を踏まえて HPV ワクチンの安全性に特段の懸念が認められないことが確認され接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回る」として令和 4 年度からの積極的勧奨が再開されました。

厚生省発行のリーフレットや港区のホームページ等をお読みいただき、ご理解の上で接種にお越しく下さい。

厚生労働省

[ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～ | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)

港区

[港区ホームページ／HPV ワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）について \(city.minato.tokyo.jp\)](https://city.minato.tokyo.jp)